

企業による「日銀ネット」の有効活用事例

～夕方・夜間を活用した円建て海外送金～

「日銀ネットの有効活用に向けた協議会」

円建て顧客送金・銀行間送金WG

(事務局 日本銀行決済機構局)

はじめに

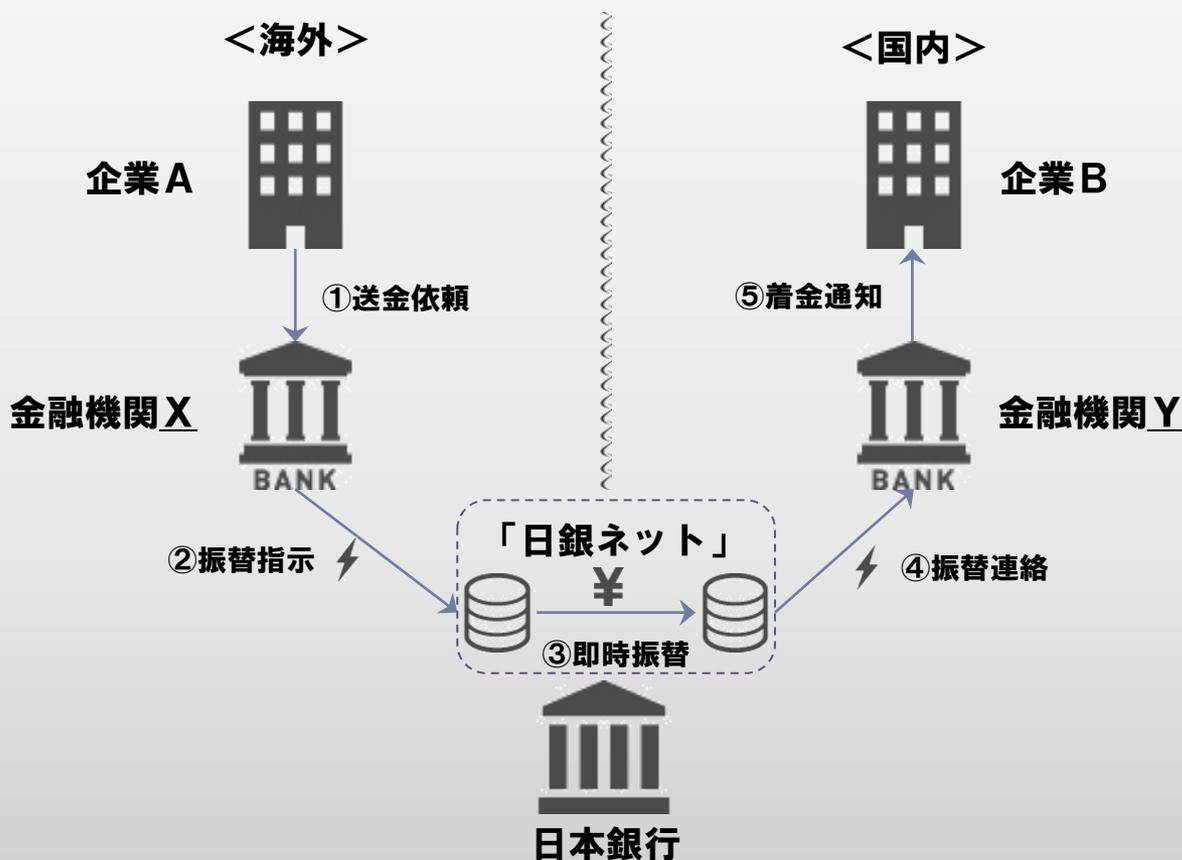
- ▶ 日銀ネットの稼働時間は2016年2月、21時(夜9時)まで拡大。
- ▶ 夕方・夜間の時間帯の活用により、従来よりも迅速な円建て海外送金が可能に。



企業による「日銀ネット」の利用

- ▶ 企業は、取引先金融機関を通じて、間接的に「日銀ネット」を利用。他行宛て円建て海外送金*はその典型例。

[円建て海外送金（円資金の流れ：海外⇒国内）]



※取引先金融機関によるコルレス口座を通じた決済の場合、他行宛て送金でも「日銀ネット」が利用されないケースがある。

特定日・緊急時における夕方・夜間の活用例



月末日など特定日における当日付の着金

- ・月末日など決済が集中する日の当日付の着金
- ・日本と海外の休日が相違する場合など、休前日付の着金
- ・決算反映のための決算締め日当日付の着金



急な依頼や事務不備などへの急ぎの対応

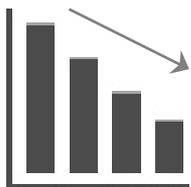
- ・取引先からの急ぎの送金依頼や着金確認依頼への対応
- ・社内の営業部署などからの急ぎの依頼への対応
- ・事務手続きの不備などに伴う急ぎの対応



システム障害や災害発生時などへの緊急時対応

- ・システム障害時における未処理取引の当日中のリカバリー
- ・災害発生時における資金繰り支援などの緊急時対応

通常時における夕方・夜間の活用例 (1)



運転資金の圧縮

- ・ 売掛金の回収前倒しによる運転資金圧縮
- ・ 買掛金の支払い繰り延べによる運転資金圧縮
- ・ 在庫期間の短縮による運転資金圧縮（着金側、代金先払い）



信用リスクの削減・回収確認

- ・ 売掛金の回収前倒しによる信用リスク削減
- ・ 新興国企業など支払遅延が懸念される先宛ての売掛金について、支払期日当日の回収確認



取引条件の改善・取引関係の強化

- ・ 夕方・夜間の着金に対応し、取引先の支払いを繰り延べることによる取引条件の改善・取引関係の強化
- ・ 支払いの迅速化による取引条件の改善・取引関係の強化

通常時における夕方・夜間の活用例 (2)



商品の迅速な発送・仕入れ（代金先払い）

- ・夕方・夜間の着金を活用した、迅速な商品発送（着金側）
- ・送金から仕入れまでに要する仕入期間の短縮（送金側）

※夕方・夜間の物流サービスが前提となる。



円資金キャッシュマネジメントの効率化

- ・海外拠点から国内拠点への円資金集中・配分の迅速化
- ・国内拠点から海外拠点への円資金集中・配分の迅速化
- ・海外拠点間の円資金集中・配分の迅速化



その他

- ・国内送金の24時間・365日可能化※に伴い、夕方・夜間に着金した円資金を国内の支払いなどに活用
 - ・クロスボーダーM&Aに伴う資金移動
- etc

実務上の留意点

関係金融機関との対話



- ・仕向け・被仕向け双方の金融機関による個別対応が必要
- ・とくに、一時的・緊急時のみ夕方・夜間を活用する場合は、必要な際にスムーズに対応できるように、事務フローなど事前の摺合せが重要

社内の事務処理態勢の調整（必要な場合）



- ・日締め処理時刻の調整（夕方・夜間決済分の当日付反映）
- ・経理・財務スタッフの夕方・夜間の労務管理面での対応
- ・キャッシュマネジメントシステム等のシステム変更
- ・社内の送金・入金受付時限など、決済慣行の変更 etc

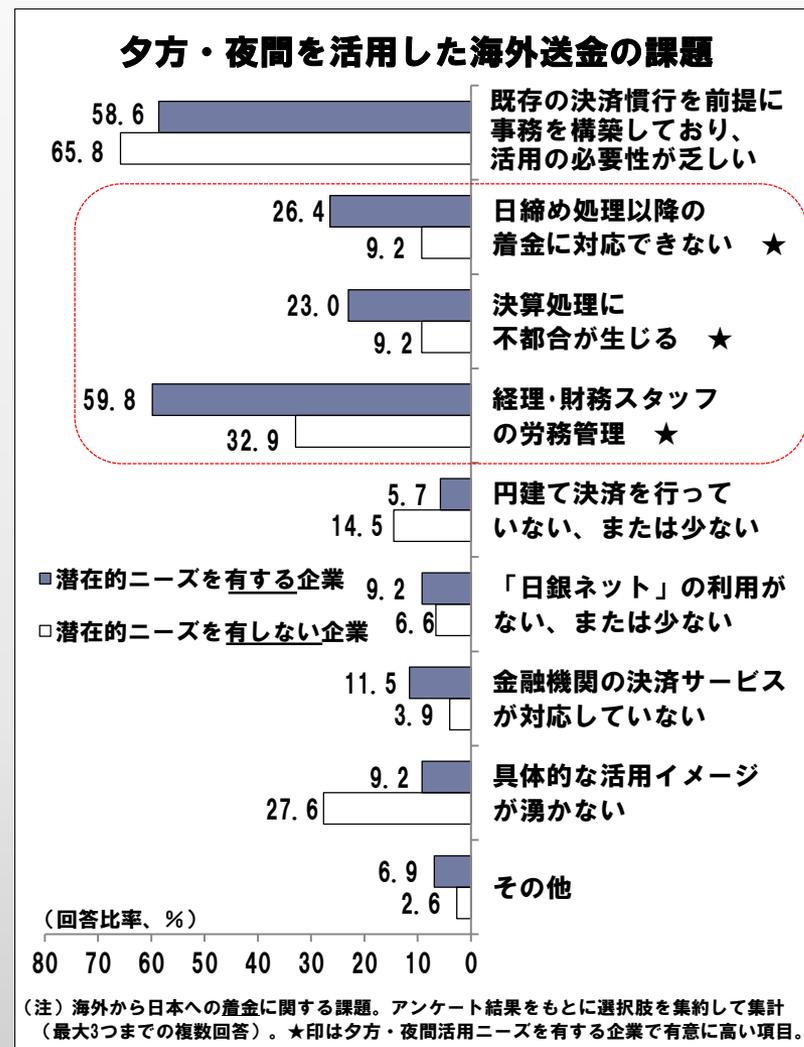
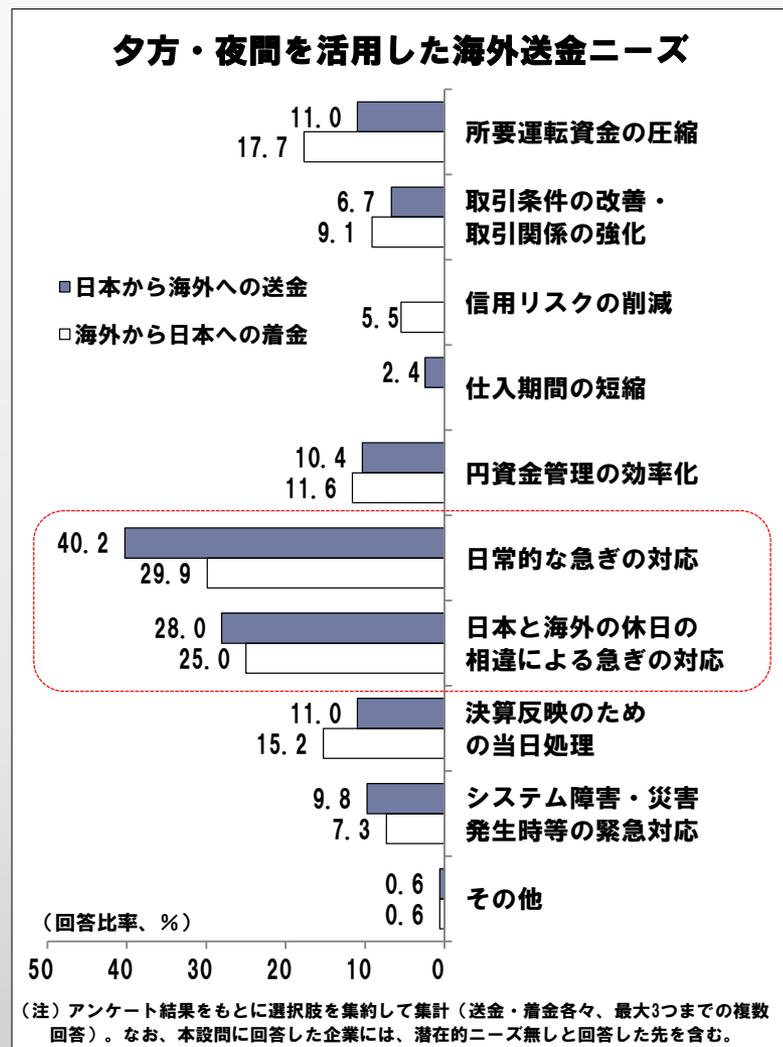
社外の関係先との調整（必要な場合）



- ・取引先・海外拠点に対し、夕方・夜間の活用について周知
- ・取引先・海外拠点と支払期日や納期の変更などに関し対話
- ・物流・IT関連サービス業者との調整 etc

ご参考

▶ 「事業法人向けクロスボーダー円建て決済サービスに関するアンケート調査※」



※2017年2月、海外拠点をもつ本邦企業および本邦進出の外資系企業、計390社に対して実施。回答企業は170社(有効回答率43.6%)。 7